

事務局からのお知らせ



5月から行われた事業の報告

☆ 交流会

5月17日 総合保健福祉センター「ゆとろ」多目的ホール 参加者 27名
「地域に暮らす認知症の方とご家族を支援する取り組みについて」
当別町地域包括支援センターの千葉美香子氏より、支援センターの役割、サポーター養成講座、サポーター倶楽部の活動、あったかサポーターの活動紹介等、身近な地域での取り組みについてお話を伺いました。

☆ 平成23年度全道家族の会総会

5月21日～22日、函館で開催され、当会より五十嵐会長、高島理事が出席しました。

☆ 介護者の集い

6月8日 総合保健福祉センター「ゆとろ」保健相談室、参加者13名
今月は介護をされている方同士の交流、情報交換を目的に集いを行いました。
総勢13名、あったかプランとうべつの木村さん、地域包括支援センターの千葉さんより助言をいただきながら集いとなりました。それぞれの方が、今抱えている悩みについて語り合い、介護サービスの利用状況、これから利用したいサービスについて情報交換を行いました。また、同時にいきいきクラブ（託老）も行われ、あゆむ会のスタッフとの楽しい語らいのひとつとなりました。

☆ 道央ブロック研修会

6月29日 当別町総合保険福祉センター「ゆとろ」多目的ホール 参加者 64名
道認知症の人を支える家族の会主催の道央ブロック研修会が当別町で開催されました。午前中は放送大学の井出訓教授による講演、午後からは「各支部の活動」についてグループ討議が行われました。

☆ 施設見学

特別養護老人ホーム「ばんなぐろ」 介護老人保健施設「愛里苑」 参加者 19名
今回は近隣の施設という事で、午前中石狩市の特老「ばんなぐろ」、午後からは町内の老健施設「愛里苑」を見学しました。



8月下旬からの事業予定

◎ 研修会（料理講習会）

8月25日10時～13時 総合保健福祉センター「ゆとろ」 栄養実習室
講師 当別町管理栄養士 土井淑子氏
介護者のための栄養を考えた献立を、調理実習を受けながら教えていただきます。

◎ 介護者の集い

9月21日 13時30分～15時 総合保健福祉センター「ゆとろ」 多目的ホール
6月に引き続き、介護している方同士の交流会を行います。同時にいきいきクラブ（託老）も行います。
介護を受けておられる方も同伴でぜひご参加下さい。

◎ 介護者リフレッシュの集い

今年も介護をしていらっしゃる方のリフレッシュを目的に、南幌温泉で集いを行います。
1日ゆったり温泉で介護の疲れを癒やしませんか。多数の方の参加をお待ちしています。
詳しくは、後日ご案内します。

第36号 認知症になっても安心して暮らせる社会を 2011年 9月 発行

発行所

当別町介護者と共に歩む会

ぬくもり

石狩郡当別町西町32番地2
当別町総合保健福祉センター
当別町社会福祉協議会内
電話：(0133) 22-2301
FAX：(0133) 22-0001

◆ 道家族の会総会が開催されました。 ◆

五十嵐 潔



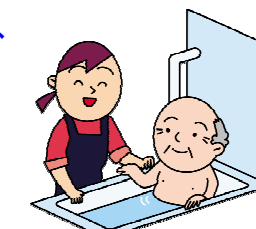
平成23年度「北海道認知症の人を支える家族の会」総会が函館湯川花びしホテルにて開催されました。

5月21日22日の二日間にわたり総会と研修会（講演会）が行われ、当会から2名参加でした。21日は総会に始まり、その後研修会として「昭和の8mmフィルムに詰まった思い」と題した講演が行われました。講師は株式会社シンプルウェイ代表取締役 坂口 あき子氏で昭和30年代から40年代に流行しました8mmフィルムをDVDに焼き直しする

仕事をしている方でした。翌日は松本診療所ものわすれクリニック理事長・院長の松本 一生氏の「認知症の人の思い」と題して講演がありました。先生は公益社団法人認知症の人と家族の会理事でもいらっしゃいます。認知症の72%の人は自分が何かおかしいと言う病識を持っている。「忘れる」という中核症状から不安や恐怖によっていろいろな症状が出てくる。こころの動きを喜・怒・哀・楽に分けて説明が有り、うまく喜や楽につながると心理状態が安定し、問題行動が少なくなる事も実例をあげて話されました。認知症の人を支えるには、介護する家族を、福祉、医療、行政が連携して支える事や、信頼できるかかりつけ医を持つ事、必要に応じて薬剤を使用する事など、実践的な話もありました。



当別町介護者と共に歩む会では随時、会員を募集しています。認知症の方を介護されている方、関心がある方は事務局まで申し込み下さい。



◆ 講演会「地域で暮らす、認知症の方とご家族を支援する取り組みについて」◆ 講師：当別町地域包括支援センター 千葉 美香子氏



5月17日に講演会を開催しました。始めに地域包括支援センターの紹介があり、当別町福祉の基本理念である「思いやりと生きがいを感じられるまちづくり」の説明がありました。認知症になっても安心して暮らせるまちの条件とは？当別町における認知症ケア関連図、認知症サポーター養成講座、あったかサポーター、(ここであったかサポーターのビデオ上映)、徘徊高齢者SOSネットワーク、相談窓口と地域包括支援センターで扱っている認知症関係についてをお話し下さいました。

◆ 道家族の会道央ブロック研修会開催 ◆ 五十嵐 潔



6月29日(水)に当会が主幹となり道央ブロック研修会を開催しました。道央ブロック内には8支部がありこの度の出席支部数は5支部でした。5支部から22名参加され、全体で65名の出席で行われました。

10時から放送大学井出訓教授の「加齢と物忘れ」～実態と予防方法～と題しての講演会でした。最初に記憶テストをし、講義に入りました。記憶の型にもいろいろあり、手続き記憶、陳述記憶があり、記憶の過程も記憶、保持、想起と順序があります。感覚記憶、短期記憶、長期記憶と覚えている長さにもいろいろあります。加齢に伴うさまざまな変化の影響を受け、脳神経細胞は衰えて行き、(仕方の無い事)脳の萎縮もあります。歳を取ると気が散る。新しい事を覚えるのに時間が掛かる。思い出すのに時間がかかりますなど、これらは自然の摂理で仕方の無い事です。物事を記憶するのに理由付けすると覚えやすいです。注意を向けるためのテクニック(指さし確認、口に出して試してみる、積極的に観察する)

「歳だから仕方が無い」といった神話に振り回されず、老化と記憶に対する正しい認識、知識を身につけ、その上で適切な戦略を持って積極的に日々の生活に望むことが大切と結ばれました。

午後からは「各支部の活動について」と題してグループ討議に入りました。4グループに分かれて1時間話し合い、その後記録係が発表しました。各支部ごとに特色のある事業がなされていて、当会でもそれぞれの支部との交流を深めながら努力してゆきたいと肝に銘じた所です。



◆ 平成23年度施設見学に参加して ◆ 菅 利春



8月10日にあゆむ会主催の施設見学が行われました。

見学施設は、1. 特別養護老人ホーム「ばんなぐろ」
2. 介護老人保健施設「愛里苑」、の2ヶ所でした。

1. 特別養護老人ホーム「ばんなぐろ」

この施設は鉄筋コンクリート3階建ての大変綺麗で、職員の方々も明るく、気持ちの良い施設でした。サービス内容は10人の小グループを一つの「生活単位」として、家庭的な雰囲気の中で、個人の生活リズムを大切に、職員がケア(介護)をしています。全室個室の少人数で、介護を提供し、生きがいの有る生活を送り、心と心の触れ合いを大切に考え、各階に共有スペースを持ち、ゆったりとした居間、ラウンジを設け、各ユニットごとに「集い」、「触れ合い」、入居者間の交流がはかりやすいようになっています。

介護度1~5の判定を受けられた概ね65歳以上の方で、排泄、食事、入浴等日常生活に支障が有るため、常時在宅ではこれらの援助を受ける事が困難な高齢者の方が入所出来る施設です。開設は平成17年4月でまだ新しく、入所者は女性47名、男性5名、平均年齢88歳、認知症の方が9割ほど居て、ほとんどの方が車いすを利用しています。平均介護度が3.5、待機者が約100名と説明されました。気配りの行き届いた施設でした。



2. 介護老人保健施設「愛里苑」

平成19年に前管理者から譲り受けて開設されました。要介護認定を受けた方(65歳以上で何らかの介護が必要な方、または、40歳以上で若年認知症もしくは特定疾患の方)が対象とのことです。サービス内容は利用される方の体の状態に合わせて、どのような介護サービスが必要かあらゆる職種の職員と共に計画を立てサービスを提供しています。医療も入院の必要の無い程度 of 要介護者を対象とし、医師、看護師が常駐しているとの事です。通所サービスも行っています。2人部屋4、4人部屋が23有ります。入所定員は100名で、家庭で介護が出来るようになることを目指しています。80歳代が一番多く、介護度は平均1.7とお話ししました。環境も私の父がお世話になっていたときと比べ、かなり良く、明るく感じられ改善されたと思って見学してきました。

賛助会員の皆様、あゆむ会の運営に今年もご協力ありがとうございました。皆さま方のご厚意に応えられるように、役員一同気を引き締めて、事業に邁進いたします。今後もよろしくお願い申し上げます。有り難うございました。